

八丈町 News Letter From
Hacijyo Town Assembly

議会だより

No.

159

2011.7.25

議会だよりは八丈町のホームページでもご覧いただけます
http://www.town.hachijo.tokyo.jp/gikai/gikai_dayori/gikai_dayori.html



小笠原親善訪問 平成23年6月23日～28日

目次

- 第2回八丈町定例議会 2
- 一般質問 3
- 本会議の質疑から 10

第2回八丈町定例議会

震災から得た教訓、町の防災に活かそう

大震災の復旧・復興が思うように進まず、一方で福島第一原発の事故もいまだ収束に目途が立たない状況にあります。被災地から遠く離れた八丈町でも、今定例議会の質問の多くは、震災関係に集中しました。

また今議会では歓迎すべき記録が続きました。一般質問にこれまで最高の8人が登壇したこと、そのうち震災関連という同じテーマの質問が6人いたこと、さらに5人の新人議員すべてが質問にたったことです。これからの議会の活発な議論を予感させるものでした。質問の内容は、①津波・地震時の避難指示の必要性②被災者の受け入れに



6月16日 現地の様子

岩手県大槌町に平成23年6月16日から20日まで町職員2人が派遣されました

もつと支援を③被災者受け入れと町の地域防災計画の見直し④避難訓練の強化と節電対策⑤放射能汚染調査と自然エネルギー開発の必要性など多岐にわたっていました（詳細は後述）。

5月に入り、2人の町職員が第一陣として被災地支援のため現地に派遣されました。総務課長は、一般質問の答弁の冒頭、数分程度の時間をさいてこの時の体験を報告しました（広報に詳細掲載）。報道で見聞きしていたのとは異なり、現地の生の声や被害状況を目の当たりにして、対策の難しさを実感したそうです。今後の町の防災対策を立てる上で、いい経験になったと述べました。

そのためか、執行部の答弁はこれまでの「前向きに検討します」という抽象的なものから、時期や具体的な対策を盛り込んだ、一歩踏み込んだ答弁になっていたように思います。町の対策や政策がきちんと実現されるよう、議会もしっかりと見届けなければなりません。

全員協議会

議会終了後、協議事項について執行部から説明がありました。

島嶼会館について

3月11日の地震で建物の一部が損壊し使用できなくなった会館の解体工事が7月から始まること、1億数千万円の解体費用は、一組の基金でまかなうこと、新島嶼会館建設は今年度中に

実施設計と用地買収を済ませ、24年度から工事に入る予定であること、利用料は7000円程度になることなどが明らかになりました。

解体、および建設費用が一組の基金や、振興基金でまかなわれることにホッとしましたものの、利用料が適正かどうかについてはさらに細かな検討が必要でしょう。

生活排水対策事業について

企画財政課から、「八丈町浄化槽整備計画（案）」が示されました。設置工事費や複雑な処理手数料などの概要の説明がありました。ただ、事業の必要性は十分理解できるものの、設置済世帯と未設置世帯で費用負担が異なることや、事業所で設置する場合の大きな負担については、今後議論を呼ぶところです。



新島嶼会館完成イメージ



避難勧告・指示の基準は

答 避難の具体的基準と弾力的運営について検討する



菊池良 議員

◆所要時間 25分

質問 今回発生した災害時において、八丈町も避難勧告・指示を出すべきだったのでは。被害がなかったのは結果論である。東海・東南海地震が発生する確率は、今後30年間で、87%と言われる。このことを鑑み、避難勧告・指示の基準を設け、町民にPRする必要があるのである。

答 山越 総務課長

「八丈町地域防災計画」の中に避難勧告・指示等の考え方が示されているが、具体的基準には至っていない。

い。東日本大震災を契機として国を始め東京都も防災計画の見直しにとりかかる動きもあることから「八丈町地域防災計画」の見直しも順次取り組みたい。避難の具体的基準と弾力的運営について検討し、周知を図りたい。

サッカー場や野球グラウンドを活用した誘致をおこなうための体制づくりは可能か

答 町全体で取り組み交流を図る

質問

2月に徳島県阿南市を視察した。同市は、

野球の町「阿南」として、野球の町「阿南」として、野球による誘致を産業の一つと位置づけ、産業部の中に「野球のまち推進課」を設け、積極的に誘致を行っている。

ている。その姿勢には、見習うべきものがある。八丈町もサッカー、野球を官民一体となつて盛り上げ、誘致につながる必要があると考える。教育課のみならず、産業観光課、企画財政課が連動して、推進していく体制作りは可能か。

答 福田 高峰 教育課長

平成23年4月に生涯学習

係を1名増員。体制の強化を図っている。スポーツを通じた、あるいは八丈島の貴重な歴史や文化に基づく交流事業について町全体で取り組み交流を図る。

貴重な文化遺産を映像、音声等で残すことは出来ないか

答 映像・音声等で残すよう取り組みたい

質問 八丈太鼓や檜立踊り、その他多くの民謡等は現在口伝で伝えられていくものも多く、その記録等も個人レベルのものが多い。このままでは消滅してしまふものが出てくる恐れがあると危惧している。先人たちの貴重な文化遺産を後世に伝えていくのも、現在を生きる我々の重要な使命と考え

る。映像・音声等で残すことは出来ないか。

答 福田 高峰 教育課長

映像・音声等で残すよう取り組みたい。また、後継者対策として、小学校などでは八丈太鼓の教室を定期的に開催するなどの事業も積極的に行っている。今後も八丈太鼓の各団体や、檜立踊り保存会などの各団体とも連携を取りながら後継者の育成の確保に努める。



南原野球場

中之郷温泉、ザ・BOON周辺に露天風呂の増設を

答

将来、総合的にどのように開発するかという問題と合わせ検討課題とする



山下 松邦 議員

◆所要時間 4分

温泉スポットとなつてい
る。さらに立派な露天風呂
を造るべきかについては、
将来、総合的にどのよう
に開発していくかという問
題と合わせ、今後の検討課
題とする。

家具転倒防止器具の無償配布を

答

今回の定例会で予算の追加計上を行う



水野 佳子 議員

◆所要時間 10分

弱い立場の人たちに対
する避難誘導は

「災害時要支援者避
難体制整備事業」と
して避難体制確立の
取り組みをしている

質 問

ザ・BOON周
辺で眺望のよい所に、観光
スポットになるような立派
な露天風呂の設置と、ゆつ
たりとした歩道で湯上がり
の散歩が楽しめるように、
裏見ヶ滝温泉までの道路拡
幅が出来ないか。

答 笹本 重喜 健康課長

3月議会でも回答した
が、「やすらぎの湯」近辺
に露天風呂を造ることは湯
量の問題から難しい。現在
中之郷には4つの温泉が存
在し、他の地域とは違った
中之郷地域独特の分散型の



ザ・BOON

質 問

地震発生時のた
めに家具転倒防止器具の無
償配布を。

答 山越 整 総務課長

平成21年度から3カ年事
業として東京都市長会、東
京都町村会から補助を受け
ながら実施しており、今回
一般会計補正予算で追加計
上する。住民には、広報
「はちじょう」8月号でお
知らせする。

質 問

緊急時、訪問介
護や介護サービスを受けて
いない独居高齢者や老々介
護世帯、障害者をかかえた
世帯をどう守るか、どのよ
うな形で避難誘導するか。
「第2次みつわ計画」が始
まっているが、具体的な組
織作りをするべき。

答 山越 整 総務課長

高齢者等の救済につい
ては、昨年度より「災害時要
援護者避難体制整備事業」
として高齢者の避難体制を
確立するための取り組みを
行っている。民生委員等地

域や消防団ともその中で検
討したい。



観光特派員、観光大使
による観光活性化を

答

議会、八丈島観光振
興実行委員会に諮り
ながら検討する

質 問

観光の低迷が続
く中で根強い八丈島ファン
も多くいる。多くの人に呼
び掛け観光特派員、観光大
使になつてもらい、登録し
てもらおう制度を作つては。

答 奥山 拓 産業観光課長

平成23年度、観光サポ
ーター、観光大使を活用する
ことでの宣伝業務や広報活
動検討を観光協会からも提
案された。町としても、観

光活性化のため、インターネットをはじめ、顔が見える観光アピール活動は必要と認識している。観光関係者の情報協力も得ながら、

八丈島へのリピーター等を活用し、制度化することができるかを含め議会、八丈島観光振興実行委員会に諮りながら検討したい。

東日本大震災の被災者受け入れ状況について

答 6月8日現在、東北三県から5世帯13人を受け入れている



山下崇 議員

◆所要時間 9分

質問 町では、被災者の受け入れを行っているが状況は。

答 山越 整 総務課長
4月中に避難した3世帯10人は島内の親戚を頼って自主避難している。

5月に避難した2世帯3人については避難所を何方も回っているなかで、移

遭うなど、他の被災地とは違う状況が続いている。原発の状況が落ち着いても、簡単に帰ることはできない。八丈島は都市部とは違って温かく迎えてくれるとの期待が高まっている。特に、子育て世代の移住希望者が多い中で新たな町づくりを進める考えはないか。

答 山越 整 総務課長

「町として大震災への支援はできる限りのことはさせていただく」という町長の方針のもと取り組んでいる。

定住促進施策として、民間住宅で提供可能物件の情報の一元化や、就労支援施策として遊休耕作地の活用、農業、漁業就労等のしくみ作りに取り組んでいる。

受け入れ体制の整備が整い次第、施策として被災地へのアプローチを行う。

八丈町への被災者受け入れに関する支援方法・受け皿は？

答 被災地からということであれば支援方法に違いはない



岩崎由美 議員

◆所要時間 13分

質問 今後被災地からの受け入れに関しては、長期化することが予想される。

① 被災地から八丈島へ避難してくる方には様々な形があるが、罹災証明書の有無、その他の違いによって支援態勢に違いはあるか。
② 被災者受け入れの受け皿はどのように考えているか。

答 山越 整 総務課長

① 現在、八丈島に避難している方々は自治体経由ではなく、島の親族をたよ

って来た方、移住先として八丈島に来た方である。いらっしゃる方のタイプは、たぶん色々あると思うが、基本的に今回の被災地からという事であれば支援方法に違いはない。今後は移住先として来島する方が増える事が予想されるので、町の人口増加施策、定住促進施策と合致させていきたい。

② 住宅については空きがある間は町営住宅を、そして次に民間住宅、さらに国等の宿舎を検討している。そういった受け皿が整い次第、被災地へ積極的にアプローチしたい。情報の集約は町のホームページで行っている。様々な会議等で得られる情報集約を行い内容を充実させていきたい。

再質問 受け入れに関し

て、自治体によってはいち早く条例を定めた。細かく文書化してしまうと融通がきかなくなるといって一面もあるが、これについて条例化する考えはないか。

答 山越 整 総務課長
今までの対応を少し整理

しなければということもあって、先ほどご案内したホームページで体系立てて、町の取り組みをいろいろ整理している。当面は、いま我々がやらなければいけないことをやっていくということ、条例化が必要かどうかはゆっくり考えたい。



町のホームページの震災に関する対応についての項目

八丈町地域防災計画に関する新たな取り組み

答 国や都と連携。弾力性を持たせる内容を検討したい。

質問 八丈町防災計画

は、最悪の事態を想定し、それに対する可能な限りの対応を検討した上で構築する必要はあるが、今回の震災を踏まえ、新たに必要であると考えられる具体的な内容や事業についてはどのようなことが想定されるか。

答 山越 整 総務課長

国や東京都が防災計画の見直しにかかっている。現在、どう見直すかを検討している段階で、国や都の動きをみながら、連携して改訂・見直しをしていきたい。津波などの際の避難の判断基準については早急に設定したいが、単に一律な数字だけでなく、弾力性をもてる内容としたい。

再質問 防災計画に関し

てハード面はやはり国や都との関連性があるので、その動きをみながら検討していくべきだが、ソフトの部分については今からでも取りかかるときではないか。

答 山越 整 総務課長

高齢者の避難方法の確立を

答 民生委員、地域、消防団と検討し避難体制を確立する



奥山 幸子 議員

◆所要時間 34分

質問 東日本大震災後、町は義援金のほか、被災者の受け入れ表明、実際の受け入れ、町職員の被災地への派遣など様々な支援を行っている。3月議会では町の防災体制について多く

の質疑があったが、さらに必要なこと、新たに取組んでほしいことについて伺う。
① 受け入れた被災者の現状と今後の展望について。
② 町の防災体制の見直しについて。一般住民の避難訓練の徹底。高齢者の避難方法の確立。
③ 災害時に備えて連携市町村を。東京都が被災し都市機能が停止した場合にそれに替わる連携市町村を想定しておく必要がある。

④ 節電対策について。節電についての町の取り組み、住民への呼びかけは。

答 山越 整 総務課長

① 重複するので省略。

② 10月5日の防災訓練は内容を変え、一般住民の参加を積極的に呼びかける。民生委員や地域や消防団と検討し、「災害時要援護者避難体制整備事業」として高齢者等の避難体制を確立する。

③ 東京都の機能が停止する状況では、町が単独で連携を検討するよりは、東京都とそれ以外にも支援可能な自治体を考えるべきで、都や国からの支援を検討すべきと考える。

④ 町は火力発電の燃料消費を抑えることで間接的に被災地や本土の電力不足に貢献したい。庁舎などでの節電や町の施設の使用時間の繰上げでかなり節電できている。都が掲げる25%節電にむけ取り組んでいく。

再質問

防災訓練にどれだけの住民が参加して、集

合場所や避難場所をどれだけの人が知っているかが問題。どこに住んでいる誰を、近くの誰が避難誘導するのかを決めておくことが重要。部落の連絡網を活用すべきだ。人の入れ替えもすぐに更新できるし、数人の班長が5〜6世帯に連絡する規模であれば、高齢者がどこでどんな風に暮らしているのかがわかる。町が自治振興委員につくるよう要

請したものの。これを使って実効性のある訓練を。島のすべての地区で連絡網ができていくか。

答 山越 整 総務課長

連絡網はすべての地区でできているとは言えない。自治振興委員との会合があるので、消防団、民生委員との連携をはかりつつ、体制を確立していく。



避難誘導訓練の様子

島内牧草の有効利用を図れ

答 すでに取り組んでいる

年度より必要な農家に有効利用されることになった。その他、町有地や公共用地の牧草については、関係機関と連携して、牧草を供給できる仕組みを検討していきたい。

質問 町が酪農から畜産への転換を促して4年が経つ。現在畜産農家は酪農との兼業を含めて5軒である。しかし、その経営状態は厳しく、とくに飼料の高騰が経営を圧迫している。

再質問

空港周辺の平地は利用可能になっていくが、斜面についても考えてほしい。

答 町長

すでに取り組んでいる。命令するのではなく、議員なら予算獲得に動くべき。

空港周辺には草地が広範囲にあり、年3回程度の定期的な維持管理が行なわれている。刈られる草の総量はかなりのものになる。飼料として利用できれば、島の畜産・酪農家にとって大きな助けになると考えるので、町の産業を支える事業として、支庁の港湾、産業、そして町が連携し、島内の牧草の有効利用を実現してほしい。

答 奥山 拓 産業観光課長

支庁の空港管理事務所と打ち合わせをし、畜産農家との連絡体制もつくり、今

八丈島空港の機能充実を

答 中期的な課題として国や都へ要望する



廣江才議員

◆所要時間 9分

質問 八丈島空港は、離島ながら2000級級の滑走路を有した立派な空港である。しかし、欠航が多いという欠点も有している。しかし島民の足として、また島内出身者の帰島、観光客などを含め、八丈島空港は重要な拠点である。私は空港の機能の充実を図り、欠航率の改善を強く求めたいと考える。八丈町は赤字路線の解消に積極的に取り組まなければならぬが、政府に対しても八丈島空港の持つ意義を認識させる必要がある。海軍力の増

強を図る中国海軍が小笠原近海を通過し、西太平洋上において活動している現実がある。政府は硫黄島、沖縄、八丈島とのトライアングルエリアの持つ意義を、国家として考慮しなければならぬ。地方空港では、北海道など数ヶ所しか整備されていない現状であるが、有視界飛行ではなく、計器飛行による全天候型の空港としての充実を図るよう切望する。

欠航率の改善は利便性と密接な関係にあり、利用率の増加につながる。利用率の改善は航空運賃の大幅値下げ交渉の前提条件である。国内旅行の移動手段として、距離的にも八丈島航路は感覚的に高いと考える。航空運賃の大幅な値下げは人口流動にも大きな効果をもたらすし、増便等など

あらゆる展開が見込まれ、航空会社の収益にもつながる。国としての空港整備事業のあり方と八丈町のあり方は、矛盾するものではないと考える。その実現のために、八丈町が主体的に行

動を起こさなければならぬ。石原都政に対し、そのための調査、検討の確約を八丈町として改めてお願いしたいと考える。見解を尋ねる。

答 佐々木眞理 企画財政課長

視界不良でも安全に着陸できるようにするためには、計器飛行が有効である。そのためには、飛行場に計器着陸装置を整備、現在の着陸帯150級幅を300級に、それに伴うターミナルビル移設、垂直方向のズレを伝える機器の整備が必要となる。また、これらの整備を行っても、八丈島特有のガスや横風の影響から、どの程度、就航率改善が図れるか別途検証が必要であるとの情報を得ている。中期的な課題として国や都へ要望する。



八丈島空港のILSは航空機に滑走路への進入方向を指示する装置で方位を示すLLZと、距離を示すターミナルDMEなどで構成されている

東北三県の直接的な被害にどう対応したか

答 八丈町のホームページに随時掲載している



菊池 陸男 議員

◆所要時間 21分

質問 ① 東京都の津波浸水予測調査書に、過去の島嶼の災害の歴史、津波のシミュレーションなどが掲載されている。東京都の報告書に基づいた八丈町の災害対策を考えるべきでは

② 八丈町は東北三県の直接的な被災者にどう対応したか。

③ 飲料水・大気・土壌、海水、野菜への付着物の放射能汚染調査をおこない、住民に安全安心であることの啓発、およびガイガーカウンターの設置が必要では。

④ 東電における中之郷地熱発電の今後の情報は。求められる町の支援・関与があるとすれば何があり、どう対応するか。

⑤ 自然エネルギーの開発、普及、促進をし、低エネルギー社会への移行を実現し、原発推進から撤退への方向を目指すべきと考えるが。

答 山越 整 総務課長

① 「わがやの防災マップ」内の津波のハザードマップは、同調査書を基に作成している。しかし、調査書は今回のような大きな津波を想定していない。東京都が調査書修正後、八丈町の防災マップに反映することになる。

② 八丈町のホームページに「東日本大震災に関する八丈町の取り組みについて」というコーナーを4月に立ち上げ、随時情報提供を行っているのでは是非閲覧してほしい。

③ 飲料水等の放射性物質は不検出。情報はホームページに掲載している。

④ 東京電力の見解は、八丈島地熱発電所は2000kwで発電している。八丈島全域に安定した電気を供給するため2000kwを維持していく。しかし、併設の「TEPCO八丈島地熱館」は、来年3月31日まで休館する。以降については今年中に方針を決定すること。町の支援、関与については、東京電力と協議を進めながら考える。

⑤ 原子力発電をやめることは世界レベル、国レベルでの課題である。八丈町では、自然エネルギーの導入、利用については積極的に進めたい。また、現在役場施設で行っている電気の省エネルギー対策が前年比10%から20%減の効果を得ている。八丈町での自然エネルギー導入と省エネルギー対策を併用した低エネルギー社会の実現も難しいものではないと考える。



地熱館の休館を知らせる貼り紙

第二回定例会の質疑から

矢崎住宅解体費は適正
価格であるか

奥山博文議員



矢崎団地解体工事1500万円は高額である。これから物を作るときは、解体のことで考え事業にあたるべきである。当解体費は適正な価格であるか。

和田一宏建設課主幹 矢崎住宅は木造住宅であるため処分しなければならぬ木くずが非常に多く発生する。これについては有明興業に持ち込んで島外搬出となつていゝる。有明興業から見積もりをとり実施にあつてゐるので適正価格である。

奥山博文議員

島内で処理する方法を取るべき。

土屋博議員



解体する場合、仕様書にネジなどを並べて全ての写真を撮らなければならぬとの記載があると同つていゝる。そのような手間がかさみ解体

費が高額になるのでは。
建設課主幹 矢崎住宅は12棟もの

行政視察レポート



神奈川県 箱根町

箱根町における観光行政

期間 平成23年2月1〜3日

視察者 山下崇、岩崎由美

菊池睦男、奥山幸子

山口英治

建物があること、および単純に潰すのではなく、窓枠などをきちんと外す等の手間がかかることは事実である。

八丈島の観光が低迷するなか、関東圏にあつて盛況な観光地である箱根町を視察しました。

観光協会の役割

箱根町のキャッチコピーは「な

八丈町と箱根町は同じ「富士箱根伊豆国立公園」に属していることや、町の施設「箱根湿生花園」で八丈産の食虫植物やヤコウタケの展示で長くお付き合いがあります。

箱根町に入る年間の観光客は2000万人に達しますが、その裏



八丈島を紹介するポスター

んかいよいね箱根」です。あまりに漠然として、実際広い域内に点在する施設、アクセスする道路にしても歩道も無く、温泉の質にしても八丈島が引けを取るような事はありません。

首都圏からのアクセスの良さだけでは説明できない「なんか」があるのは確かです。

箱根町の観光協会は財団法人で非常に大きな組織です。視察の冒頭、箱根町議会議員を交えて役場、観光協会から概要の説明を受けましたが、ほとんどの住民が観光業に関わる地域だけに、議会も隣接する地域と連携して、移りゆく需要に対応する準備にぬかりがなく、見習うべき姿勢です。

また、大きな組織を牽引するには強いリーダーシップが求められますが、副町長が理事長についており役場主導に疑問を感じていた私たちには衝撃的でした。しかし、逆転の発想で強力な推進力には感心させられました。

他にも、観光課内に自然保護を担当する課長を置くなど細かく地域の観光資源を維持、発展させていこうとする姿は非常に参考になり、早速協調して観光誘致を行うことを約束して視察を終了しました。

報告者 山下 崇

東京都 八王子市

地域密着型小規模特養ホーム



① 八王子丘の上レジデンス（社会福祉法人）

都内に5ヶ所ある29人以下の小規模特養ホームのうちの一つです。一人一部屋で、9～10人のまとまりが3つある施設で、入所者は介護度3、4程度と高く、認知の方もいました。施設は最新設備が整っていますが、利用者の負担は月額18～19万円とかなりの高額で、八丈の場合は負担が大きすぎると思いました。5億円の建設費のうち補助金は市の4000万円のみ。そのため施設利用料が高くなっています。職員、看護師の確保の問題、借入金返済など課題も多いというものでした。

② 至誠ホームミナ（社会福祉法人）

国分寺市にある①と同様の3階建ての施設。2Fに小規模特養ホームがあり、1Fは地域包括支援センターや高齢者住宅7室、3F

にグループホームがあり、さらに敷地内に児童グループホームもあります。複合施設であることで、お互いの交流や、給食サービスや介護スタッフの共用が可能となり、なんとか自前で経営できてい



徳島県阿南市

野球による観光誘致

期間 平成23年2月8～10日

視察者 菊池良、廣江才、水野佳子、山下松邦、長戸路義郎、土屋博

るそうです。こうしたきめ細かい工夫を、今後の町の高齢者福祉施策に活かしていくべきだと思いましたが。

報告者 奥山 幸子

今回議会としても、今後の八丈町の方向性を探るべく、スポーツにおける観光誘致を行っている徳島市阿南市の取り組みを視察しま

八丈町では現在、2013年東京国体での高等学校軟式野球大会の実施に向け、南原スポーツ公園内に、急ピッチで野球グラウンドの整備が行われています。また、国体前に離島交流少年野球大会の誘致もすると聞いております。同公園内には、すでに天然芝の素晴らしいサッカー場もあり、多くのイベントに活用されております。今後、野球場の完成とともに町としても、一大スポーツ空間として、観光スポーツ誘致の施策を考えていかなければならないと思えます。



アグリあなんスタジアム

した。阿南市の取り組みの大きな特徴としては、野球による誘致を社会教育ではなく、産業の一環としてとらえていることです。野球のまち推進課を創設し、専従職員を置くことにより、機動力を生かすことが出来ます。

全国の多くの野球愛好者には、観光・宿泊、また対戦相手までも折り込んだ、独自の野球観光ツアープランを作り、そのプランを利用することで、気軽に阿南市を訪れることが出来るようにしています。一方で、早朝野球の全国大会、還暦野球の西日本大会、また学生野球の合宿などを誘致し、野球のまちとしての阿南市を強烈にアピールしています。

八丈町でも、国体後を見据え、サッカー等も含めた観光スポーツ誘致を、社会教育のみで対応するのではなく、一つの産業としてとらえ、町として全体でどういう取り組み方が出来るのかを、検討していかなければならないと、強く考えさせられました。

報告者 菊池良

こんなところも視察しました

○那賀川道の駅

○牛岐城趾公園

○光のまちステーションプラザ

町ナビ

7月3日、開館50年記念図書館まつりが開催された。コミュニティセンターB棟にある「こどものほんのへや」では「ひよこクラブ」のスタッフが読み聞かせや絵描き歌、手遊びなどを行った。訪れた子どもたちは、歌に合わせて、楽しそうに絵を描いた。「ひよこクラブ」は、保育園入園前の親子を対象にした子育てサークルで、毎週木曜日の午前中に保健福祉センターなどで活動している。



6月定例議会主な議決事項

- 専決処分事項の報告及び承認について（平成22年度八丈町一般会計補正予算）
ほか専決処分事項5件
- 平成22年度八丈町一般会計継続費繰越額の報告について
ほか報告1件
- 平成23年度八丈町一般会計補正予算
- 平成23年度公営住宅整備事業富士見第2団地B棟建築工事請負契約
ほか契約2件
- 東京都後期高齢者医療広域連合議会議員の補欠選挙における候補者の推薦について
議員の派遣承認について
（青ヶ島牛まつり）

編集後記

春から夏、太陽から降り注ぐ光と雨の恵みを受した八丈島の森は、命輝く季節を迎えました。庭や畑をきれいしておくために何度も草刈りをしなければならず、そのたびに太陽の力強さを体感します。太陽光が植物の体に変化し「食」を通じて他の生きものに受け渡されるように、太古より自然界では莫大な太陽エネルギーがその原動力の基本でした。

津波による原発事故は、太陽光をはじめとした自然エネルギーの重要性を改めて考える機会と

なりました。八丈島の電力はその一部が地熱・風力でまかなわれていますが、島という環境を有効に活用して、新しい可能性を探りながら、自然エネルギーの自給率をもっと高めていくことが今後ますます重要になるでしょう。一方で、便利さに慣れてしまった私たちの暮らし方そのものを考え直す時期に来ているのかもしれない。私はそのように感じています。
岩崎由美

発行人 八丈町議会議長 小沢一美

編集 議会だより編集委員会 委員 山下崇 岩崎由美 水野佳子 奥山幸子